

せんが

千苧水源池西岸を歩く(羽束川)

第 33 回武庫川エコハイク

091212 エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km²、篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流蓬川の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門(むこみなと)」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。

羽束川(はつかがわ) 武庫川最大の支流で、源流は大阪府能勢町天王の深山(みやま、標高 791m)。途中篠山市後川(しつかわ)、三田市高平を経て宝塚市波豆で波豆川を合流して千苧水源地に注ぐ。武庫川には武庫川峡谷の直上流の神戸市道場で合流する。流域面積 95 千 km²(武庫川流域の 19%)、長さ 32km、高低差 360m で武庫川奔流よりも勾配が大きい。「羽束」は「波都加之(はづかし)」から出、「泥部(はづかしべ、石の職人)」の住む所という説がある。「波豆」の語源も同意と考えられる。このあたり北摂最高の石造物の宝庫であることからうなずけないこともない。

富士チタン工業(株)神戸工場 石原産業(株)の 100% 子会社。神戸工場では酸化チタンの製造をしている。同社の酸化チタンは繊維用艶消し剤(シェア 60%)、カード用 PET フィルム白色顔料に使われている。(同社ホームページより)

不動岩 ロッククライミングのメッカ。

千苧浄水場 神戸市北区の開発や住宅団地の建設などによる人口の増加にあわせて、千苧水源池を水源として、昭和 42(1967)年 3 月に創設された北神水道の浄水場。面積 20,000 m²、1 日当たり浄水能力 108,000m³、太陽光発電(95kw)、水力発電(180kw)にも注力して浄水場使用電力の約 8%を賄い環境にも配慮している。

千苧水源池 明治の初め、神戸市ではコレラが毎年のように流行し、この対策のため水道の必要性が増大し、明治 30(1887)年水道工事が開始され、30 年代に布引貯水池、奥平野浄水場、烏原貯水池が完成した。さらに大正 8(1919)年、千苧貯水池が完成した。池の面積 112 万 m²(満水時)、貯水量 1,160 万 m³、堰堤高さ 42m、同長さ 106m、池の周囲 23km。

現在、神戸市水道の 13%を担っている。

千苧水源池の治水活用 武庫川の治水を検討した武庫川流域委員会は平成 18 年 8 月人口減少、水需要の減少に鑑みて千苧水源池の治水活用を提案した。

千苧堰堤 高さ 42m、長さ 106m 重力式粗石モルタル積。国指定文化財、大正中期時点で最も高い水道用粗石コンクリートダム(A ランク)。近代化産業遺産にも指定されている。

千苧橋 RC 開腹アーチ(C ランク)文化財。

大岩岳 標高 384m、千苧水源池の東側に位置する。

武庫ノ台ゴルフコース パブリックゴルフ場 昭和 40(1965)年開場、関電系列。

千刈カンツリー倶楽部 メンバーシップゴルフ場 昭和 41(1966)年開場。もと関学ゴルフ場。

古い道標 旧三田街道に立つ道標 2 基。

この事業は兵庫県瀬戸内海環境保全連絡会助成を受けています

普明寺 源満仲の第四子頼平がここに阿弥陀如来を祀り、出家して満照と号した。寺宝として有角馬の頭が龍馬神として祀られている。この竜馬神は源満仲がこの辺りを荒らしていた大蛇を龍女に頼まれて龍所から授けられた竜馬神に乗って退治したと伝えられる。雨乞いの神として崇拜される。

波豆八幡神社 多田院の荘園であった波豆の鎮守社で、本殿は覆屋に入っている。三間社流造の大きな規模で、棟木の墨書からは、応永 10 年(1403)の建立であることが確かめられる。文化財として、八幡神社本殿(国指定文化財)、石造鳥居(県指定文化財) 応永 32 年(1425)の刻銘がある 藍本の酒滴神社の石造鳥居(1395 年)と同様式 水源池の築造により移築された。五輪塔(県指定文化財) 康永 2 年(1343)銘あり。宝篋印塔(県指定文化財) 明德 2 年(1391)銘あり。板碑(県指定文化財) 嘉暦 3 年(1328)銘あり。宝篋印塔(宝塚市指定文化財)南北朝時代のものと思われる(1332~1392)。地藏石龕(宝塚市指定文化財) 応永 24 年(1417)銘あり(新大橋の東詰の路傍にある)、石造文化財が多い。

社叢のツクバネガシ群落 兵庫県のレッドデータブックCランク。

千苧水源池の歴史

千苧の「苧(かり)」は「束(そく)」のことで、刈り取った稲の束数をあらわしている。水源池で水没したところには「千苧」のほか「八百苧」の地名が見える。

明治初期神戸にコレラが発生し、水道を作る計画が持ち上がり、明治 33 年(1900)布引貯水池、同 38 年(1905)烏原貯水池ができ、明治 39 年水の需要が増え水量豊かな羽束川の千苧が候補になった。

明治 43 年(1910)初めて水没を知った波豆集落では大騒ぎになり、貯水池に必要な面積が 100 町歩、家が 20 数戸あり、堰高さ 100 尺を 50 尺に下げよう要求するも、明治 44 年(1911)神戸市は堰堤工事を起工し測量開始した。明治 45 年(1912)波豆集落は村集會を開き対抗委員会を結成、堰高さの半減や親水区域の減少を西谷村を通じて神戸市に陳情した。この結果はわずかの堰堤高さの提言は実現したが、堰高さの半減はいれられなかった。

大正 2 年(1913)神戸市から西谷村宛に工事施工認可の写しが届き、工事は住民の意向を無視して進んでいき、大正 3 年(1914)、基礎掘削工事の地鎮祭と工所用発電所の建設が始まり、一部に用地買収価格の通知が送られてきた。西谷村の要望に対して神戸市は回答せず強硬な姿勢を見せた。大正 4 年(1915)4 月、土地所有者に買収価格と移転料の通知が来た。直ちに価格値上げを伝えなが応諾されなかった。ついに同年 8 月、総会席上買収移転に応じた。波豆村田地 21 町歩、畑 2 町歩、山林原野 75 町歩が収用された。

大正 8 年(1919)千苧堰堤竣工。

大正 15 年(1926)水道第 2 期拡張で堰高さ 20 尺嵩上げが内務省から認可、波豆村は井堰、ため池、水車の補償、村人の雇用などの陳情書を提出したが殆ど受け入れられなかった。昭和 3 年(1928)工営所設置、買収価格発表。移転家屋 22 戸、水没土地面積約 23 町歩。昭和 6 年(1831)堰堤嵩上げ工事終了。(「宝塚市史」、「続羽束の郷土史誌」より)

調査:コープともしびボランティア振興財団助成